

## 2024年度開発協力人材育成事業：募集分野

募集分野		登録番号	
■募集分野	アフリカ食料安全保障・稲作振興	■募集人数（人）	1
■学位	修士		
■担当部署名	経済開発部 農業・農村開発第二グループ		
■募集の背景			
<p>人口増加率が高く栄養不足人口が特に多いアフリカ地域は、ウクライナ侵攻等による食料・肥料価格の高騰、気候変動の影響により深刻な食料危機に直面している。JICAは、アフリカの食料・農業セクターの強化を通じて人間の安全保障を実現するため、2022年11月に「JICAアフリカ食料安全保障イニシアティブ」を立ち上げ、食料安全保障の4つの視点（Availability、Access、Utilization、Stability）に応えるため、支援を展開している。</p> <p>このイニシアティブの中核となる食料生産面の中長期的支援として、アフリカ稲作振興（CARD：Coalition for African Rice Development）がある。CARDはTICAD IV（2008年）でJICAとAGRA（Alliance for a Green Revolution in Africa）により開始された。アフリカでのコメ生産倍増（1,400万t（2008年）→2,800万t（2018年））を目標に、アフリカ23カ国を対象にJICAを含む9つの支援機関が取り組んだ結果、目標を達成した。そして、TICAD7（2019年）において、増加するコメ需要に対応するため更なる倍増（5,600万t（2030年））を目指すCARDフェーズ2が開始された。今後、単収の向上等を通じたコメ生産の安定的な拡大に加えて、バリューチェーン構築・強化を通じたコメ産業の開発・発展にも取り組んでいく計画である。</p>			
■本事業を通じて育成が期待される人材像			
<p>アフリカの食料安全保障、特に日本が支援に力を入れている稲作振興に関連する各種政策・制度、あるいはバリューチェーンの各プロセス（機械化、農業金融、加工・付加価値向上、流通改善等）に関する専門性を有し、将来JICA専門家として活躍できる人材が育成されることが期待されている。</p>			
■想定される大学院の研究コース（及び研修内容）			
<p>「Agriculture」「Food」「Development」等をコースタイトル、あるいはカリキュラムに含むコース。イギリスでは、Reading、East Anglia、Greenwich、アメリカではCornell、UC Davis等が想定される。</p>			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）（<a href="https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html">https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html</a>）</li> <li>●CARD事務局 HP：CARD Who We Are（<a href="https://riceforafrica.net/">https://riceforafrica.net/</a>）</li> <li>●JICA Press Release「アフリカで拡大する食料危機改善のため食料安全保障の強化に向けた支援を展開」（2022年11月9日） <a href="https://digitalpr.jp/pdf.php?r=65049">https://digitalpr.jp/pdf.php?r=65049</a></li> </ul>			
■研修修了後に想定されるJICA事業参画の時期・期間			
<p>学位取得後に1～2年程度JICA本部に勤務した後、専門家等として2年以上派遣されることを想定 * 面接時及び合格発表時、研修中等に本人と適宜相談の上、業務内容は変更の場合がございます。</p>			
■募集要項に記載の応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
必須	海外における開発援助に関する勤務経験（青年海外協力隊員等）を1年以上有すること。		
望ましい	当該分野に関する3年以上の実務経験を有すること		
望ましい	農業・農村開発等（農業経済学を含む）関連分野での学士号		
■備考・留意点			
<p>将来は、アフリカの食料安全保障、特にCARDの推進を担うJICA専門家としてアフリカで活躍いただくことを想定しています。</p>			